

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

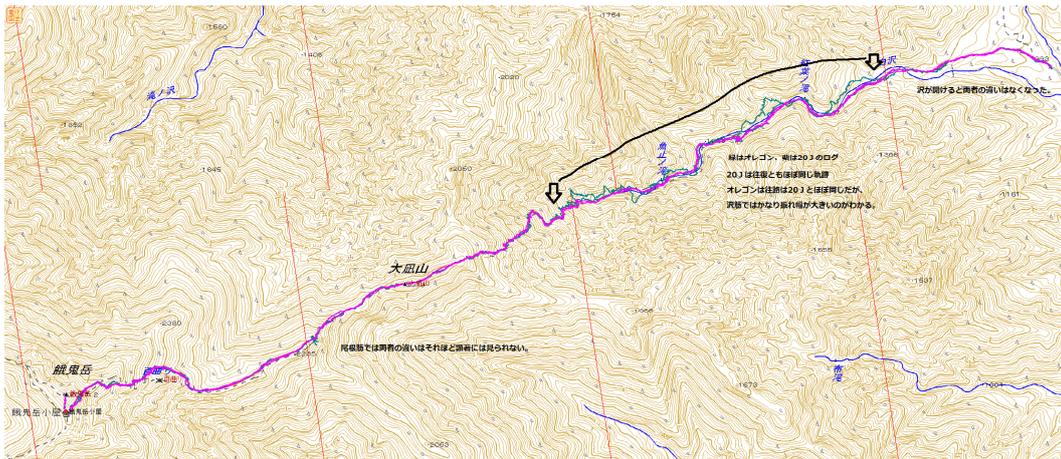
池田工業高等学校

餓鬼岳でのGPSの軌跡

10月6日に餓鬼岳に登った折、帰りにGPSの軌跡がかなりずれていることを報告したところ、何人かの方から反響があったので、具体的に示したい。ご承知のように、この登山道は、下部は白沢沿いの道であり、上部は尾根歩きとなり、大風山を経由して頂上に至る。下に示したログは緑がオレゴンの軌跡であり、紫が20Jのそれである。オレゴンに20Jを重ねてあるので、両者に差異がない部分では、紫の線が一本に見えるが、往復歩いているので、実際には緑2本の上に紫の線が2本重なっていると考えていただいてよい。実際最下部のやや扇状地状に開けた部分は沢沿いでも線は一本に重なっている。往路はほぼ両者に差異はなかったが、これは衛星が適度にちらばっていたことを意味していると考えられる。尾根に出て頂上を踏み、大風山から下り、最終水場に着いた時に、オレゴンの現在地が相当ずれていることに気が付いた。図の左の矢印地点である。ちなみにそこから右の矢印までの黒い線で示した部分が沢沿いの道である。

最終水場でズレに気づいたので、その場でスカイプロットを確認すると、かなり衛星の配置がアンバランスになっていることがわかった。その後沢に下りたあたりからは、登山道は基本的に右岸に付けられてののだが、時に左岸に大きく振れる。地形的には、沢はかなり仰角が限られゴルジュ状になっていた。魚止めの滝を過ぎたあたりのいったん谷が開けたところで、軌跡は元にもどってきたが、沢が大きく右に湾曲し再び狭くなったところで、大きく現在地から外れた。一方で20Jの方は、復路もほとんど往路を辿っているのだから、紫のラインは太く、復路のみ外れた緑のラインが細くなっているのが、図を見てもご確認いただけるものと思う。沢から林道に出て、地形が一気に開けるころには、冒頭に述べたように、軌跡は一つになった。

このところ、気になっていたのが2つのGPSを持って行ったことが、予期通り両者の違いを明確に示す結果となって現れた。20Jがあまりずれなかったのは、準天頂衛星みちびきの電波を捉えているのであろうことは、ほぼ間違いないことであろう。



*なおこの時に取ったトラックのデータを添付しますので、興味ある方はカシ米尔上で開いてみてください。両者の違いがはっきりわかると思います。

生徒も一緒にどうぞ・・・中信地区安全登山研修交流会

今年の「中信安全登山研修交流会」は10月25日（金）夕刻から26日（土）にかけて、木曽地区で開催することとなった。今回は、長野県初の気象予報士の資格を取得された我々の先輩、元木曽青峰高校の花井嘉夫先生を講師にお招きしすることとなった。花井さんは信高山岳会の設立会員でもあり、下伊那農業高校などで山岳部の顧問をつとめた経歴をお持ちである。南木曽町に在住で、木曽の山には極めて詳しい。初日はその花井さんの講演を聞き、その後は顧問同士、また生徒同士の交流会。山岳部の活動についての意見交換を予定している。懇親を深めながら語り明かしましょう。

翌日は南木曽町に移動し、南木曽岳に登る。長野県内にいながら最南端の名峰である南木曽岳にはこんな機会でもないとなかなか登ることはできない。いい機会なので、中信の顧問だけではなく県内他地区の先生方、また近県の先生方でもご都合のつく方はぜひふるってご参加ください。南木曽岳は往路と復路で周回コースをとれるようになってほかに、途中には岩場などもあって、バリエーションに富んだ山登りが楽しめる。みんなで読図したり、岩場を通過する技術を研修しあったりしながら技術研修をしましょう。生徒にも顧問にも有意義な研修交流会です。全日程でなくても構いませんので、ふるってご参加ください。詳細は以下の通りとなっています。問い合わせは小生まで。

日時	場所	内容	備考
10月25日金	木曽青峰高校 同窓会館	夕食	
		講演 「気象情報の見方と求め方」 講師 花井嘉夫先生	気象予報をどのように読み取り、登山に活かすかなど具体的なお話をしていただく予定です。
		活動交流と懇親 ・山岳部の活動交流	山岳部の活動についての意見交換と交流
10月26日土	南木曽岳	起床・朝食・清掃	
		7:30 木曽青峰高校出発 ・南木曽岳登山 ・読図その他	南木曽岳に花井先生の案内、大西の読図講習を交えながら登山
		下山後、現地で解散	

*持ち物：シュラフ、宿泊用具、日帰り登山装備

*費用：食事代850円（夕・朝食）、交流会費用実費

*申し込み：大町北高校 今滝郁夫先生宛て（fax0261-23-5740）*締切：10月21日（月）

岳人「高校山岳部の仲間たち」・・・飯田高校山岳班

岳人の11月号「高校山岳部の仲間たち」で飯田高校山岳班の活動の様子が紹介されている。顧問の杉山昭久先生の「山はヒトの感性を育ててくれる宝庫である」の言葉通りに、山での思い出を宝物にこれからも山を愛し続けたいと綴る班長の速渡君の言葉には、なんのてらいもない。ここにも素晴らしい教師とそこから学び、育った生徒がいる。